

【大学基準3 教員・教員組織】

全学		各部門	
方針	到達目標	方針	到達目標
<p>●大学として求める教員像： 本学の教員は、建学の精神及び大学の理念・目的、各学部・研究科の教育目標を十分に理解し、人材育成への使命感と倫理観をもって優れた教育と卓越した研究を行い、常に学生の学修意欲を喚起し入学目的の達成を誠実に支援する、学問的能力と豊かな人間性を備えた教員であることが求められる。そのために「北里大学の求める教員像」を定め、本学の教員に求められる能力・資質・態度を、①建学の精神（北里精神）の理解と生命科学の探究、②教育、③研究、④社会連携の4つの分野において明示する（別紙）。</p> <p>●教員組織の編制方針： 教員組織の編制方針は、学生に対して責任ある教育を行うために、第一は大学設置基準などの法令の要件を満たす専任教員を配置する。第二は、大学及び各学部・研究科の理念・目的、教育目標ならびに学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、学生支援の方針など各種方針とそれらの目標を実現するのに十分な教員組織の整備を方針とする。</p> <p>○出典：1) 北里大学の求める教員像（H20.4.18 定例理事会承認） 2) 北里大学点検・評価報告書2009（平成21）年度／第8章「教員組織」</p>	<p>【教員・教員組織に関する到達目標】</p> <p>☆1 「求める教員像」と「教員組織の編制方針」の浸透を図る。 △出典：1) 北里大学の求める教員像（H20.4.18 定例理事会承認） 2) 北里大学点検・評価報告書2009（平成21）年度／第8章「教員組織」 3) 評価に際し、留意すべき事項（大学評価ハンドブック）</p> <p>☆2 「求める教員像」と「教員組織の編制方針」を踏まえ、教育・研究を始めとする諸活動を十分に推進できる教員組織を編制する。 △出典：大学基準（大学評価ハンドブック）</p> <p>☆3 教員の採用にあたっては、「求める教員像」「教員組織の編制方針」を踏まえ、教員の人格、教育研究上の能力、教育業績、研究業績、学界及び社会における活動実績等、多面的に考慮し、明確化された教員の採用・昇任等の手続きに則って公正に行う。 △出典：大学基準（大学評価ハンドブック）</p> <p>☆4 教員多元的業績評価を適切かつ円滑に実施し、評価の実質化を図り、教育・研究等諸活動の水準の維持 向上に繋げる。 △出典：到達目標・改善方策管理表（2012年度）</p> <p>☆5 教員・教員組織について適切性を検証する組織体制を構築する。 △出典：評価に際し、留意すべき事項（大学評価ハンドブック）</p>	<p>I. 学部、研究科が求める教員像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各学部の教育理念、教育目標等の理解と各学部の学問の探究に関する内容 2. 教育に関する内容 3. 研究に関する内容 4. 社会連携に関する内容 <p>II. 学部、研究科における教員組織の編制方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部の教育課程に相応しい教員組織の編制に関する内容 2. 教員の募集・採用・昇格に関する内容 3. 教員の資質の向上を図るための方策（FD活動）に関する内容 <p>III. その他、学部、研究科が必要とする事項</p> <p>【薬学部】 薬学部は、大学の理念に沿って、最先端の基礎研究を土台とする高度な臨床薬学教育・研究の推進という教育研究目標の達成を目指している。これを踏まえて、大学全体の教員組織の編制方針を前提として、以下のように方針を策定する。</p> <p>I. 薬学部が求める教員像 ≪薬学部全体≫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬学部は、最新の薬学的知識・技能のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備え、社会における様々な活動に、「薬」の視点を持って積極的に参加できる人材の育成を目的とする学部であることを理解する。 2. 学生の教育に熱意を持つとともに、学生の人格を尊重し、学生の授業評価を真摯に受け止め、成績評価や単位認定を公正に行う。 3. 基礎薬学あるいは臨床薬学関連分野の学術研究の進展を常に把握し、自身の専門領域の研究の発展に貢献するとともに、新たな研究分野の開拓に努めて、その成果を学生の教育研究の指導に反映させる。研究の遂行にあたっては、研究者に求められる倫理を遵守するとともに、研究費を適切に使用する。 4. 高度な知識・技能・態度を有する学生を社会に送り出すとともに、自身の教育研究の成果を地域あるいは広く社会に発信して、社会貢献に努める。 <p>≪薬学科≫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬学科は、高度化・細分化された医療の中で、医薬品の適正使用を通して、医療の質を確保するための「薬の専門家」として活躍する薬剤師を養成することを目的とする学科であることを理解する。 2. 学生の教育に熱意を持つとともに、学生の人格を尊重し、学生の授業評価を真摯に受け止め、成績評価や単位認定を公正に行う。臨床教員は、継続的に薬剤師としての実務に従事することで、医療現場の最先端の知識・技能の修得に努める。 3. 臨床薬学およびそれに関連する基礎薬学分野の学術研究の進展を常に把握し、自身の専門領域の研究の発展に貢献するとともに、新たな研究分野の開拓に努めて、その成果を学生の教育研究の指導に反映させる。研究の遂行にあたっては、研究者に求められる倫理を遵守するとともに、研究費を適切に使用する。 4. 高度な知識・技能・態度を有する学生を薬剤師として社会に送り出すとともに、自身の教育研究の成果を地域あるいは広く社会に発信して、社会貢献に努める。 <p>≪生命創薬科学科≫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命創薬科学科は、薬学関連領域における多様な人材需要に応えるため、薬剤師としてではなく、薬学の基礎的な知識・技能を基盤に、社会の多様な分野で活躍できる人材の育成を目的とする学科であることを理解する。 2. 学生の教育に熱意を持つとともに、学生の人格を尊重し、学生の授業評価を真摯に受け止め、成績評価や単位認定を公正に行う。学生の個性を考慮した教育指導、学生が幅広い視野を持った研究者となるための指導に努める。 3. 基礎薬学のみならず臨床薬学関連分野の学術研究の進展を常に把握し、自身の専門領域の研究の発展に貢献するとともに、新たな研究分野の開拓に努めて、その成果を学生の教育研究の指導に反映させる。研究の遂行にあたっては、研究者に求められる倫理を遵守するとともに、研究費を適切に使用する。 4. 高度かつ多様な知識・技能を有する学生を社会に送り出すとともに、自身の教育研究の成果を地域あるいは広く社会に発信して、社会貢献に努める。 	<p>【薬学部】【薬学研究科】</p> <p>☆教員・教員組織について、以下の事項に重点的に取り組む。 ◇教員多元的業績評価体制の定着 ・薬学部・薬学研究科の教員全員が、毎年の多元的業績評価を受けて、教員自身が自己点検し評価する体制を定着させる。 ・多元的業績評価で問題のある教員には、教員自らが改善策を提示し、実行する仕組みを構築する。</p> <p>◇教員組織検証体制の構築 ・薬学部・薬学研究科の教育課程の編成・実施方針に沿った教員組織を維持するように、運営会議、教授会、研究科委員会で教員組織を検証する体制を構築する。</p>

全学		各部門	
方針	到達目標	方針	到達目標
		<p>II. 薬学部における教員組織の編制方針</p> <p>《薬学部全体》</p> <ol style="list-style-type: none"> 最先端の基礎研究と高度な臨床薬学教育・研究を推進するため、公正かつ適切に、教育あるいは研究上の優れた業績・技能を有する者の採用・昇任を行い、基礎薬学と臨床薬学のバランスのとれた教員組織を編制する。 教員の採用は公募を原則とし、教育あるいは研究上の優れた業績・技能を有する者の採用・昇格を行う。教員の採用・昇格は規定に基づいて行われ、研究業績に偏ることなく、教員としての指導能力を十分に考慮した選考を行う。 学習障害のある学生への対応、学生へのコーチング、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントの防止など、教員の資質向上を図るための活動を恒常的に行う。また、臨床教員については、継続的に薬剤師としての実務に従事することで、医療現場の最先端の知識・技能を修得する体制を整備する。 <p>《薬学科》</p> <ol style="list-style-type: none"> 最先端の基礎研究と高度な臨床薬学教育・研究を推進するため、公正かつ適切に、教育あるいは研究上の優れた業績・技能を有する者の採用・昇任を行い、基礎薬学と臨床薬学のバランスのとれた教員組織を編制する。 教員の採用は公募を原則とし、教育あるいは研究上の優れた業績・技能を有する者の採用・昇格を行う。教員の採用・昇格は規定に基づいて行われ、研究業績に偏ることなく、教員としての指導能力を十分に考慮した選考を行う。 学習障害のある学生への対応、学生へのコーチング、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントの防止など、教員の資質向上を図るための活動を恒常的に行う。また、臨床教員については、継続的に薬剤師としての実務に従事することで、医療現場の最先端の知識・技能を修得する体制を整備する。 <p>《生命創薬科学科》</p> <ol style="list-style-type: none"> 最先端の基礎研究および基礎薬学教育を推進するため、公正かつ適切に、教育あるいは研究上の優れた業績・技能を有する者の採用・昇任を行い、基礎薬学分野でバランスのとれた教員組織を編制する。 教員の採用は公募を原則とし、教育あるいは研究上の優れた業績・技能を有する者の採用・昇格を行う。教員の採用・昇格は規定に基づいて行われ、研究業績に偏ることなく、教員としての指導能力を十分に考慮した選考を行う。 学習障害のある学生への対応、学生へのコーチング、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントの防止など、教員の資質向上を図るための活動を恒常的に行う。 <p>【薬学研究科】</p> <p>薬学研究科は、大学の理念に沿って、薬学関連分野の幅広い知識を修得させる教育の展開、専門領域における最先端の知識・技能を修得させる教育の推進という教育研究目標の達成を目指している。これを踏まえて、大学全体の教員組織の編制方針を前提として、以下のように方針を策定する。</p> <p>I. 薬学研究科が求める教員像</p> <ol style="list-style-type: none"> 薬学研究科は、医療科学・生命科学分野を担う人材を必要とする。 社会的要請に応えるため、高度な専門的知識・技能を備えた生命科学・創薬科学分野における研究者・技術者の育成、薬剤師の資格を持って臨床薬学教育・研究が遂行できる人材、ならびに専門薬剤師の育成を目的とする研究科であることを理解する。 学生の教育に熱意を持つとともに、学生の人格を尊重し、成績評価や単位認定を公正に行う。学生の個性を考慮した教育研究指導、学生が幅広い視野を持った研究者となるための指導に努める。 基礎薬学あるいは臨床薬学関連分野の学術研究の進展を常に把握し、自身の専門領域の研究の発展に貢献するとともに、新たな研究分野の開拓に努めて、その成果を学生の教育研究の指導に反映させる。研究の遂行にあたっては、研究者に求められる倫理を遵守するとともに、研究費を適切に使用する。 高度な専門的知識・技能を有する学生を社会に送り出すとともに、自身の教育研究の成果を地域あるいは広く社会に発信して、社会貢献に努める。 <p>II. 薬学研究科における教員組織の編制方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 最先端の基礎研究と高度な臨床薬学教育・研究を推進するため、公正かつ適切に、教育あるいは研究上の優れた業績・技能を有する者の採用・昇任を行い、基礎薬学と臨床薬学のバランスのとれた教員組織を編制する。 教員の採用は公募を原則とし、教育あるいは研究上の優れた業績・技能を有する者の採用・昇任を行う。教員の採用・昇格は規定に基づいて行われ、研究業績に偏ることなく、教員としての指導能力を十分に考慮した選考を行う。 教員が学生と濃密に時間を共有して教育研究指導が行われるため、学生へのコーチング、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントの防止など、教員の資質向上を図るための活動を恒常的に行う。また、臨床教員については、継続的に薬剤師としての実務に従事することで、医療現場の最先端の知識・技能を修得する体制を整備する。 	

【大学基準 4 教育内容・方法・成果】

全学		各部門	
方針	到達目標	方針	到達目標
<p>●学位授与方針： 学位授与方針は、各学部・大学院研究科において定める教育目標及び教育課程に沿って必要な学習成果を修め、その証として、学士課程にあっては所定の単位を修得し卒業した者、大学院課程にあっては所定の単位を修得し学位論文（又は特定の課題についての研究の成果）の審査及び最終試験に合格し、当該課程を修了した者に対して、学位を授与することを方針とする。</p> <p>●教育課程の編成・実施方針： 教育課程の編成・実施方針は、各学部・大学院研究科において定める学位授与方針に基づき、学生が卒業・修了時に修めべき学習成果を到達目標として、学士課程にあっては人間性の形成及び基礎から専門への円滑な移行と学修成果の達成を、大学院課程にあっては高度の研究能力・実務能力の育成を配慮した体系的な教育課程を編成し、教授団一体となった組織的な教育の実施を方針とする。 具体的には、学士課程にあっては、幅広い視野と豊かな人間性を形成する科目群（1群科目）、専門の基礎的知識・技術を形成する科目群（2群科目）、高度の専門的知識・技術を形成する科目群（3群科目）、総合的な能力を形成する科目群（4群科目）により、各専門分野の特性に応じて、順次性をもたせかつ有機的に関連付けた体系的な教育課程を編成し実施する。 大学院課程にあっては、課程教育の充実を期して、大学院学生が豊かな学識を基盤とし専攻分野における高度の研究能力・実務能力を身に付けられるよう、各専門分野の教育に必要な講義、演習、実験、実習、実技の各授業科目を有機的に関連付けた教育課程を編成し、授業科目の授業及び研究指導を実施する。</p> <p>○出典：1) 北里大学点検・評価報告書 2009（平成 21）年度/第 3 章「教育内容・方法」 2) 北里大学学則 3) 北里大学大学院学則</p>	<p>4－(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針</p> <p>1. 当面、教育内容・方法・成果について、以下の事項に重点的に取り組む。 ◇実質的な教育の質向上 北里大学教育委員会、高等教育開発センターが中心となり、主体的に学び・考え・行動する人材を育成する大学教育を構築する。 ・高等教育開発センターの充実、機能の向上 ・人材養成目的と三方針の体系化等 ・事前事後学習の促進 ・講義回数半期 15 回の確保 ・シラバスの充実 ・授業評価の充実 ・成績評価の厳格化 ・学習支援の充実 ・実効ある FD の推進 ・教育情報公開の向上</p> <p>《出典：平成 26 年度事業計画（教学センター）》</p> <p>2. 教育目標、学位授与方針、教育課程編成・実施の方針の関連性を明確にする。</p> <p>《出典：評価に際し、留意すべき事項（大学評価ハンドブック）》</p> <p>4－(2) 教育課程・教育内容</p> <p>3. 【学部】教育課程の編成・実施方針に基づき、各専門分野の特性に応じて、順次性をもたせ、かつ有機的に関連付けた体系的な教育課程を編成し実施する。</p> <p>《出典：全学の教育課程の編成・実施方針》</p> <p>4. 【学部】1群科目の充実を図り、学生に幅広く深い教養を身につけさせ、総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。</p> <p>《出典：1) 評価に際し、留意すべき事項（大学評価ハンドブック）、2) 全学の教育課程編成・実施の方針》</p> <p>5. 【学部】初年次教育、高大接続に配慮した教育の充実を図り、高校教育から大学教育への移行、基礎教育から専門教育への橋渡しをスムーズに行う。</p> <p>《出典：1) 全学の教育課程の編成・実施方針、2) 平成 26 年度事業計画（教学センター）》</p> <p>6. 本学の特色ある教育研究として、「チーム医療教育」「農医連携」を推進する。</p> <p>《出典：平成 26 年度事業計画（総合事業計画）》</p> <p>7. 【大学院】大学院課程教育の充実を期して、大学院学生が豊かな学識を基盤として専攻分野の教育の教育に必要な授業科目（講義、演習、実験、実習、実技）を有機的に関連付けた教育課程を編成し、授業および研究指導を行う。</p> <p>《出典：全学の教育課程の編成・実施方針》</p>	<p>I. 学部、研究科の学位授与方針 II. 学部、研究科の教育課程の編成・実施方針 III. 学部、研究科における学修の成果（卒業、修了までに学生が身に付けるべき能力、知識、技術、技能等） IV. その他</p> <p>【薬学部】 I. 薬学部及び各学科の学位授与方針 →大学ホームページに掲載 II. 薬学部及び各学科の教育課程の編成・実施方針 →大学ホームページに掲載 III. 薬学部各学科における学修の成果 《薬学科》 薬学科では、①薬学に関する高度な専門知識と洗練された技能を修得し、②医療人としての高い倫理観を有し、③チーム医療に資するためのコミュニケーション能力を身につけ、④医療現場における問題発見・解決能力を持つことが学修成果として期待される。また、薬学科においては、文部科学省 6 年制薬学教育モデルコアカリキュラム作成にあたり、卒業時に身に付けているべき資質として、以下の項目が挙げられている。すなわち、①薬剤師としての心構え ②患者・生活者本位の視点 ③コミュニケーション能力 ④チーム医療 ⑤基礎的な科学力 ⑥薬物療法における実践的能力 ⑦地域の保健・医療における実践的な能力 ⑧研究能力 ⑨自己研鑽・専門性の涵養 ⑩教育能力である。 《生命創薬科学科》 生命創薬科学科では、①最先端の研究を遂行するための基礎的な知識・技能を修得し、②問題発見・解決能力を身につけ、③科学的なコミュニケーション能力を有し、④科学的探究心を身につけることが学修成果として期待される。</p> <p>【薬学研究科】 I. 薬学研究科及び各専攻の学位授与方針 →大学ホームページに掲載 II. 薬学研究科及び各専攻の教育課程の編成・実施方針 →大学ホームページに掲載 III. 薬学研究科各専攻における学修の成果 《薬学専攻》 薬学専攻では、①薬学関連分野の幅広い知識を修得し、②問題発見能力と問題解決能力を身につけ、③国際的な視野を有して、④医療人としての強い責任感と高い倫理性から研究を見つめる能力を修得することが学修成果として期待される。 《薬科学専攻》 薬科学専攻では、①薬学関連分野の幅広い知識を修得し、②国際的な視野を身につけ、③豊富な演習・研究を通じた柔軟で論理的な思考力と表現力を修得し、④専門領域における最先端の知識・技能を修得することが学修成果として期待される。</p>	<p>【薬学部】 ☆学部教育については、当面、国家試験対策を重点的に推進していく。 薬学科教育カリキュラムの進行を監視し、適時に介入することで、薬学科教育を薬剤師の社会的任務達成能力（知識、技能、態度）養成に収束させ、薬剤師国家試験合格率 100%（新卒）達成と平均得点率向上に取り組む。 そのため、以下の事項の更なる整備・充実と、効果的な国家試験対策（実施体制、内容、方法等）の定着を図る。 (1) 第 6 年次初頭におけるアチーブメントテスト導入 (2) CBT 対策、OSCE 対策と国家試験対策の効率化の連結 (3) 薬物治療学演習の実施と国家試験対策講習会への連結 (4) 学生の自学、復習推進に係るシステムの整備・充実</p> <p>【薬学研究科】 ☆大学院教育においては、各大学院生の専門的知識と技能の向上を図ると同時に、関連領域に対する興味と関心と呼び覚まし、広い視野を持った大学院生の育成に取り組む。 そのため、以下の事項の更なる充実・活用を推進する。 (1) 大学院アドバイザー教員制度 (2) 大学院生中間発表会 (3) 院生と教員の交流のための懇親会</p> <p>せる。</p>

【大学基準 7 教育研究等環境】

全学		各部門	
方針	到達目標	方針	到達目標
<p>●教育研究等環境の整備に関する方針： 本学は創設以来半世紀の間、生命科学の最先端の教育・研究・医療を実践する教育学的研究機関を目指して取り組んできた。次なる発展の出発点に立ち、教育研究環境の整備の方針は、大学の理念・目的及び社会的使命の下、知識基盤社会、グローバル社会、持続性社会の進展に対応し、「ハード・ソフトが有機的に結合したキャンパスの創出」を方針とする。 具体的には、第一は「最先端の教育・研究・医療を支える校舎・医療施設の計画的な建設」を推進する。建設は全学的なプロジェクトとして取り組み、全体最適の視点を重視する。国際性や環境負荷低減、ユニバーサルデザインも重視する。第二は、医療技術の進展に対応し、医療系学生や医療人の卒前卒後教育の充実を目的とした「全学臨床教育棟の建設」を推進する。第三は、知識基盤社会が進み学習者の学習成果が一層重視される中、「学修機能を重視した図書館の整備と学術情報の充実」を推進する。第四は、「キャンパスアメニティを充実し学生の学修・生活環境の向上」を推進する。第五は、T・A・Rの拡充、知財やURAなど学術専門職員の登用により、「教育研究支援体制の整備」を推進する。第六は、独自の研究を創出するために、「教員や若手研究者・大学院学生に対する競争的研究資金獲得の支援」「大学独自の横断型研究テーマ『感染制御、農医連携、臨床研究』への参画」を推進する。また「教員の研究専念時間確保への配慮」とともに、発足間もない「サバティカル制度の定着」を推進する。第七は、適正な研究遂行を重視して、「研究倫理遵守に対する意識啓発と教育」「研究費の適正な執行管理」を推進するものである。</p> <p>○出典：1) 北里大学点検・評価報告書 2009 (平成 21) 年度/第 6 章「研究環境」/第 8 章「教員組織」/第 10 章「施設・設備」/第 11 章「図書・電子媒体」 2) 第 19 期理事会施策 3) 公的研究費の不正受給事案に関する調査研究と今後の対応に係る公表について (H25. 7. 26)</p>	<p>【教育研究等環境に関する到達目標】 ☆1 教育研究等環境の整備に関する方針を明確にし、教職員間での浸透を図る。 △出典：評価に際し、留意すべき事項 (大学評価ハンドブック)</p> <p>☆2 教育研究等環境の整備に関する方針を踏まえたキャンパス整備計画に基づき、校地・校舎、施設・設備、キャンパス・アメニティの整備充実を図る。 当面、以下の事項に重点的に取り組む。 ◇環境整備の推進 <最先端の教育・研究・医療を支える校舎・医療施設の計画的な建設、全学臨床教育棟の建設、学修機能を重視した図書館の整備と学術情報の充実、キャンパスアメニティを充実し学生の学修・生活環境の向上> ・今後のキャンパス整備・校舎建設に当たって、従来の校舎などの建設プロセスを全面的に見直し、全学的プロジェクト事業として以下のとおり推進する。 ①キャンパスの整備・校舎建設をプロジェクトとして位置付け、次の 50 年のための施設建設とトータルコストの節減を目指す。 ②キャンパス整備・校舎建設の企画段階から、当該学部・病院と本部が連携して対応する。 ③キャンパス整備・校舎建設と並行したソフト整備 (教学・事務を含めた学部横断的対応) を推進する。 ④全キャンパスを対象とした効率的な施設管理体制を構築し、長期的な営繕計画を立案・実行する。 ⑤管財部の機能強化と組織改革を早期に行う。 ・キャンパス警備・保安対策の強化 (セキュリティの向上) ・キャンパス防災計画の整備と総合防災訓練の実施 (防災備蓄品の整備) ・相模原交通対策 ①相模原キャンパスにおけるスクールバスの効率的運行の推進 ②新交通システムの導入に係る相模原市との協議継続 ③県道 52 号 (相模原・町田線) の拡幅整備に向けた協議推進 △出典：19 期理事会施策</p>	<p>I. 学部、研究科における校舎・施設・設備の整備、維持・管理、安全・衛生の確保に関する基本的考え方 II. 図書館・学術情報サービスの整備の基本的考え方 III. 教育研究活動支援のための環境・条件等の整備の基本的考え方 IV. 倫理面からの研究条件の整備の基本的考え方 V. その他、各部門で必要とする事項</p> <p>【薬学部・薬学研究科】 1. (教育・研究の施設・設備の整備、維持・管理、安全・衛生に関する内容) 本学部・研究科における教育研究環境の整備については、①最先端の教育研究を推進する為に必要な設備・装置を外部資金の積極的利用により計画的に導入・更新を図ること、②常に学生・教職員にとって安全・快適な施設・設備であること、③学外者にも魅力的な空間・環境であるよう配慮する、④安全管理の確保と衛生管理の徹底を推進することを基本方針とする。 2. (図書館・学術情報サービスの整備に関する内容) 白金図書館は、白金キャンパスの全教職員・学生の利用を対象としていることから、薬学系図書や医療科学・生命科学分野の電子ジャーナルはもとより、人文分野の資料やパソコン雑誌など、蔵書構成も専門資料に偏ることなく、利用者の要望に配慮した蔵書構成を図書館整備の基本的な考えとしてしている。 3. (教育・研究活動支援のための環境・条件等の整備に関する内容) 教育活動の支援面では、S・A・T・Rを積極的に募集採用し、教育支援体制の整備を推進することを基本的な考え方とし、研究活動の支援面では、薬学部 6 年制移行による各教員の教育面での負担増加が研究水準の低下に繋がらないよう、授業担当の交替や分割等の対策により、教育負担を適切に調整し、一定の研究専念時間が確保できるよう配慮するとともに、大型機器導入や研究室の適正な人員配置により、研究環境の充実化を推進し、教員の知的生産活動の向上を推進することを基本的な考え方とする。 4. (倫理面からの研究条件の整備に関する内容) 全学で掲げている方針同様に、「公的研究費等の不正使用防止に向けた改善方策」に従い、「研究倫理遵守に対する意識啓発と教育」「研究費の適正な執行管理」を研究費適正使用委員会が中心となり推進する。また、「白金キャンパス倫理委員会」が中心となって、ヒトに関わる研究に対する倫理的意識等について、各研究者に十分に理解してもらおうよう広報活動も行っていく。新たに制定された動物実験規程により、動物実験委員会では、国際的に広く普及している 3R (Replacement, Reduction, Refinement) の原則、および動物愛護、動物福祉の観点を尊重しつつ、実験動物の飼養および保管、ならびに動物実験を実施するよう常に指導していく。</p>	<p>【薬学部】【薬学研究科】 ☆本学部・研究科の教育研究等環境の整備・充実については、以下の事項を重点的に推進する。 ◇薬学部新棟建設計画の推進 ・現薬学部 2・3 号館の機能に加え、将来の教育研究体制の拡充も見据えた新校舎の建設計画を推進する。 ◇薬学部プロジェクト研究の推進 ・北里薬学独自の基礎薬学分野と臨床薬学分野の両分野を融合させた研究を推進し、その研究結果をもとに、平成 28 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に申請する。</p>